

扉の上にある欄間は、現在の和歌山県の根来の有名な職人、刑部左衛門国次（生没不明）によって彫られた。彼のアシスタントは作業を分け合い、伊達家の藩主とその家族が使用していた廊下の南西端に近づくにつれて、彫刻はより洗練されたものになっている。ドアフレームに黒いインクで書かれた作者の名前は、2008年に始まった建物の大規模な修復の際に大工が発見した。修復の際に現れた証拠から、研究者は現在、寺院の完成後、いつの間にか色が欄間に追加されたと信じている。